

第13回群馬県地域リハビリテーション協議会報告

群馬県地域リハビリテーション協議会・委員長 山口晴保

平成24年3月15日(木)15時から県庁281-B会議室において第13回群馬県地域リハビリテーション協議会が開催された。今回は委員の更新があり、新任委員が紹介されたあと、山口晴保委員長(群馬大)と長坂資夫副委員長(県医師会)が選出された。

議事は、以下の議題が討議された。

1)群馬県地域リハビリテーション支援センター及び地域リハビリテーション広域支援センター事業の実施状況について、13の施設が実績を報告した。それぞれの施設が特色を活かして活動している。

2)指定期限を迎える群馬県地域リハビリテーション支援センター及び広域支援センターの指定については、現在のセンターを引き続き指定することとなった(指定期間は2年間)。

3)介護予防サポーターの育成については、本年度も順調に実施され、平成23年度だけで初級522名、中級388名、上級171名が誕生した。平成18年度からの6年間では、初級6,430名、中級4,413名、上級1,722名となり、35市町村すべてで介護予防サポーターを活用している。平成23年度は19市町村が養成研修を実施し、平成24年度には24市町村が実施を予定している。これらに各広域支援センターが深く関わっている。中級サポーターの認定証については、これまで暫定的に県知事名でも出してきたが、これからは市町村長名で出す方向となった。

4)平成24年度予算案等については、事務局より、厳しい経済状況の中で、前年と同額となると報告があった。来年度の地域リハ関連の予算は、実績が評価されて減額とならなかった。限られた予算内ではあるが、予算を有効活用して、引き続き市町村と連携した介護予防サポーターの育成やフォローアップ研修、地域包括支援センターの支援、介護施設への研修などに広域支援センターが関わっていただきたい。

地域包括支援センターを支援する平成24年度新規事業として、市町村への専門職を派遣する事業が開始されるので、協力依頼があった場合は対応をお願いしたい。

5)各圏域の地域リハ連絡協議会について、事務局より保健福祉事務所の役割軽減の提案があったが、広域支援センターからは、これまで通りの役割を担ってほしいとの声が多かった。

今後は、広域支援センターと市町村+地域包括を中心とした連携強化が必要との方向性が示された。

第10回群馬地域リハビリテーション研究会報告

群馬県地域リハ研究会 勝山しおり

平成13年12月15日、群馬リハビリテーションネットワークが設立され、上田 敏先生を講師にお招きし「ICFとこれからのリハビリテーション」と題して記念講演会が行われました。以来、リハビリテーション関係者の垣根のないネットワークを構築するため、地域リハ研究会を開催してきましたが、気が付くともう10年！

初期の頃は、地域リハビリテーションやネットワークに関するテーマを、ここ数年はその時々の特典的内容や各論的内容で企画してきました。この10年間でお招きした講師の先生方の一覧をみると懐かしくなります。

からっ風が吹く季節、何度もご参加くださいました皆さまに感謝申し上げます。今後ともよろしく願い申し上げます。

群馬地域リハ研究会のあゆみ

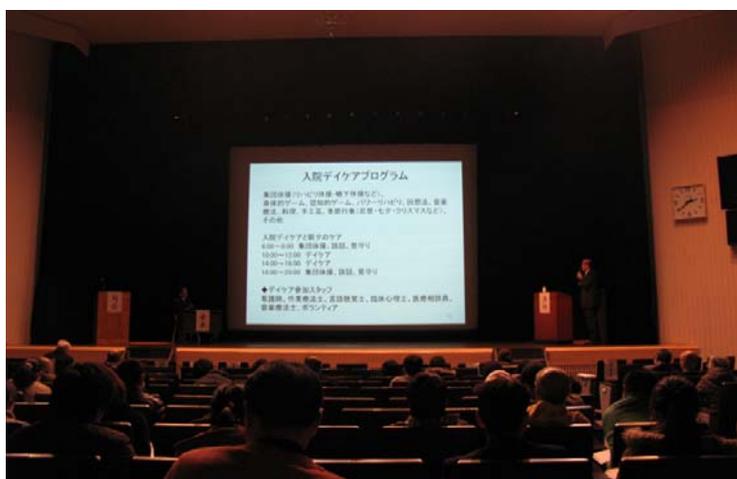
第1回 平成15年2月22日 初台リハビリテーション病院院長 熊本機能病院総院長	石川 誠 米満 弘之	回復期から維持期へのリハビリテーションの流れ 地域リハビリテーションネットワーク - 熊本県の現状と課題 -
第2回 平成16年2月14日 小倉リハビリテーション病院院長 但馬長寿の郷兵庫県企画調整部地域ケア課主査	浜村 明德 備酒 伸彦	地域リハビリテーションの課題 地域ケアシステムへの取り組み - 但馬長寿の郷での実践を通して -
第3回 平成16年12月11日 相澤病院リハビリテーション科統括医長 NPO法人夢の湖舎 理事長	原 寛美 藤原 茂	地域リハへつなぐ脳卒中急性期リハビリテーションへの提言 地域リハへつなぐ脳卒中回復期リハビリテーションへの提言
第4回 平成18年1月21日 公立みつぎ総合病院副院長 NTT東日本関東病院リハビリテーション科部長	林 拓男 稲川 利光	広島県における地域リハビリテーションの現状と今後の課題 食べる楽しみを取り戻すために - 介護予防の視点から -
第5回 平成19年1月20日 東京都老人総合研究所副所長 NPO法人佐久平総合リハビリテーションセンター	鈴木 隆雄 中村 崇	介護予防と生活機能 地域で行うリハビリテーション - 住民主体の介護予防実践 -
第6回 平成20年1月26日 NPO法人このゆびと一まれ 在宅リハビリテーションセンター桜新町院長 日本医科大学附属病院医療安全管理部副部長	総万 佳代子 長谷川 幹 長谷川 幸子	地域の中で自分らしく生きるために 障害者の自立と(主体性)を地域で支える 障害者となって
第7回 平成21年1月24日 高知医療学院学生部長 長崎大学医学部保健学科学科長	宮本 省三 松坂 誠應	脳のリハビリテーション - 生活行為へアプローチする認知運動療法の紹介 - 運動機能向上・転倒予防事業をとおした地域づくり - 長崎県の地域リハビリテーション活動から -
第8回 平成22年1月23日 国際医療福祉大学保健医療学部言語聴覚学科 広島県高次脳機能センター	内田 信也 丸石 正治	脳機能イメージングの基本原則とリハビリテーションへの応用 エビデンスに基づいた高次脳機能障害へのアプローチ
第9回 平成23年1月22日 総合病院国保旭中央病院リハビリテーション科 目白大学保健医療学部作業療法学科	藤本 幹雄 鷲田 孝保	脳卒中のリハビリテーションとリハスタッフ間の連携 童子から二度童子へ ~Therapy can be fun! ~
第10回 平成24年1月21日 旭神経内科リハビリテーション病院院長 横浜市栄区役所総務課	旭 俊臣 稲坂 恵	認知症リハビリにおける地域連携と陸前高田市における心のケアとリハビリ活動 世界保健機関(WHO)協働センターが推進する「Safe Community」とリハビリテーション関係者の役割

旭先生の講演に参加して・・・・・・・・・・・・・・・・

大誠会内田病院 春原正志

今回、旭俊臣先生より、「認知症リハビリにおける地域連携と陸前高田市における心のケアとリハビリ活動」と題して、認知症の治療や認知症リハビリテーションなどについてのご講演を頂きました。その中でも私が最も印象に

残ったのは、入院デイケアという取り組みでした。入院デイケアの目的としてBPSDの軽減や日中臥床傾向の改善、訓練時間も増大などが挙げられ、集団体操やパワーリハ、回想法などの内容を、1日を通して行なうというものでした。結果としてBPSDの軽減や転倒件数の減少が得られていました。当院でも認知症による不穏の患者様が多く、リハビリ以外の日中の活動時間の確保に難渋しているのが現状です。介入頻度の影響も結果として見られており、患者様やスタッフの為にも意義のある介入が必要だと改めて実感しました。リハビリだけでなく病棟スタッフとの連携も不可欠であり、関わりの時



旭俊臣先生の認知症リハビリの講演

間・内容などとても参考になりました。

また陸前高田市の心のリハビリなどについても「こころのケア」チームの活動を通してご講演いただきました。活動目的として震災後に増加する高齢者の認知症やうつ病、寝たきり、自殺の発生予防の為に支援を行うというものでした。いずれにしても、早期に予防する事の重要性や今後超高齢化社会の中でのリハビリをいかに行なっていくか、身体面だけでなく精神面にも介入していくことの重要性を再認識することができました。

今後認知症に対し、更に徹底したアプローチが必要になると思い、知識・技術の向上と共に患者様に対する理解も深めていく必要性を感じました。

元気な高齢者が「家庭内のお風呂で溺死」する事実を知りました・・・

前橋医療福祉専門学校 白田修久

今回は、第10回地域リハ研究会の講演「セーフコミュニティ活動とリハビリテーション関係者の役割」講師 稲坂恵(横浜市栄区役所総務課)先生の座長をやらせていただきました。

簡単に講師を紹介します。稲坂先生は国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院理学療法学科6期生として卒業されました。その後、横浜市立大学附属病院を中心に系列の小児施設から診療所まであらゆる理学療法を経験し、ヨーロッパにて事故は予防できることを知りセーフコミュニティという概念を学ばれました。そのことを日本でも普及しようと活動され今日に至っています。

講演のなかで、印象的だったのは不慮の事故が原因で亡くなる方の多くが元気な高齢者であり、家庭内のお風呂で溺死するという事実でした。なぜそのようなことが起こるのか不思議でした。そのメカニズムを簡単に紹介していただいたところ、溺死の原因は入浴中の温熱作用により体表面の血流が急激に増えて、浴槽から出ようとして立ち上がったときに脳の血流量が急激に減少し、その結果として、意識障害を起こして浴槽内に倒れこみ溺死する可能性があるとのこと。対策は表の通りです。

そこで重要だと思ったのは予防と対策という視点です。元気な高齢者の日常生活での事故を予防するという点をもっと着目することが必要です。そのためには今、高齢者に起きていることをもっと知り、対策をたてることが、今後高齢者がさらに増える中で求められることと思われまます。医療職は病気や障害をもつ人を対象に法律で業務を定めていますが、今後はもっと健康な方も視野に入れて対策を考えていく必要性を感じました。

入浴事故予防のための対策（東京都健康長寿医療センター研究所）

1. 湯温は39～41℃くらいで長湯をしない
2. 脱衣場や浴室の室温が低くならない工夫をする
3. 食事直後や深夜に入浴しない
4. 気温の低い日は夜早めに入浴する
5. 心肺の慢性疾患や高血圧症をもつ人では半身浴が望ましい

http://www.tmig.or.jp/J_TMIG/j_topics/topics_184_3.html

群馬リハネット事務局便り

(H23.12～H24.3)

平成24年3月現在会員等の状況

- * 加入団体 32 団体
 - * 賛助会員 団体会員 2 団体
- (株)孫の手・ぐんま(旧ハッピーラブハッピー)と、榛名荘病院より賛助会費をいただいております。

- * 個人会員 1名

12.4 ぐんま認知症アカデミー

第6回秋の研究発表会(後援)

1.21 平成23年度第2回理事会

県支援センター事務局便り

(H23.12～H24.3)

12.20 ニュースレター17号発送

1.21 第10回群馬地域リハ研究会

3.5 県介護高齢課より事業予算を受入

3.15 第13回群馬県地域リハビリテーション協議会・広域支援センター連絡協議会

3.30 ニュースレター18号発行

「上級介護予防サポーターの学び直しニーズ」事前調査

群馬県地域リハビリテーション支援センター
事務局長 浅川康吉



平成 18 年度にスタートした介護予防サポーター制度はすっかり定着し、さまざまな活動が行われています。活動内容が多様化するにともない、「追加的な研修が必要ではないか」とか、「以前の研修を復習したい」といった声も聞かれるようになりました。こうした声に応えるべく県支援センターでは次年度事業として「上級介護予防サポーターの学び直しニーズ調査」を企画しました。

調査を行うためには適切なアンケート用紙の作成が必要ですが、上級サポーターの活動は“地域の実情に応じて”が基本にあり、標準的な形がありません。そこでまずは「2009 介護予防サポーター育成・活用事例」に登場した沼田市と藤岡市に協力を依頼し、事前調査を行わせていただきました。

アンケートにご回答いただいた方は2つの市をあわせて 105 名でした。そのうち 86%は女性で、65%は上級サポーターとしての活動を2年以上続けている方でした。得られた結果をいくつか紹介させていただきます。まず、満足度については「とても満足」が 8.6%、「おおむね満足」が 41.9%でおおよそ半数の方は活動に満足している反面、「とくに不満も満足もない」という回答も 24.8%ありました。

つぎに今後の研修についてです。「必要ない」は 5.7%と少なく、「必要」が 47.6%と多かったですが、「どちらともいえない」も 33.3%を占めていました。さらに細かく見てみると、「とても満足」と「おおむね満足」をあわせた方の 52.8%は今後の研修を「必要」としているのに対して、「とくに不満も満足もない」と「やや不満」と「とても不満」をあわせた方の 51.5%は「どちらともいえない」という異なる回答傾向がみられました。

アンケート結果についてはさらに分析を加え、上級介護予防サポーターの学び直しニーズを探るアンケート用紙づくりに活用していきたいと思えます。平成 24 年度は全県規模で「上級介護予防サポーターの学び直しニーズ調査」を行いたいと考えておりますのでみなさまのご協力よろしくお願ひ申し上げます。なお、本調査に関するご意見などあれば県支援センター事務局までお寄せください。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

編集デスク

山口晴保 清水尚子
山上徹也 角田祐子

発行

群馬県地域リハビリテーション支援センター

連絡先

群馬県地域リハビリテーション支援センター事務局

群馬大学大学院保健学研究科内

Tel/Fax : 027-220-8966

E-mail: tsunoday@health.gunma-u.ac.jp

ぐんま認知症アカデミー

第7回春の研修会

日時:平成 24 年 6 月 24 日(日)

13:30~18:00

場所:群馬会館 ホール

参加費:500 円

●講演 I 「地域の認知症ネットワークづくり」

講師:内海久美子 先生

(砂川市立病院精神科部長 医師)

●体験 「心も体も軽くなるラフターヨガ」

講師:女屋かほる 先生

(群馬ラフターヨガクラブ 代表)

●講演 II

「認知症終末期の経管栄養をやらない根拠」

講師:会田薫子 先生

(東京大学大学院人文社会系研究科
死生学・応用倫理センター)

※詳細とお申込は、ホームページをご覧ください。

<http://happytown.orahoo.com/ninchi/>